

Schedule

海渡りの日

令和3年 10月10日(日) 14:30

《海渡り》作品公開

令和3年 10月11日(月) 29日(金)

糸あげの日

令和3年 10月30日(土) 9:00

弁天様のお祭り

*旧暦9月26日

令和3年 10月31日(日) 11:00

五十嵐靖晃 海渡り

 つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

IGARASHI Yasuaki “Umizwatari”

海辺の集落を見守るように島の頂に鎮座する弁天様。島へは潮が引いたときに歩いて渡ることができます。明治時代にはすでに執り行われていたとされる集落の「弁天様のお祭り」も、近年は高齢化などにより継承が難しくなっていました。

2018年、地域資源をアートにより再評価し、町の活性化につなげるアートプロジェクト「つなぎまちのつなぎかた」がアーティストの五十嵐靖晃により始まりました。3年に及ぶりサーチと対話により生み出された《海渡り》は、古くから地域に伝わる弁天信仰を住民とともにアートの力によって再構築し、町内外の人々の協力を得ながら後世に受け継いでゆくことを目指す新しい私たちのアート作品です。

《海渡り》スケジュール

1. 海渡りの日

令和3年 10月10日(日) 14:30～ (参加自由)

… 参加者全員で赤い糸を持って海を渡り、島と陸をつなぎます。(17:27干潮)

2. 《海渡り》作品公開

令和3年 10月11日(月)～29日(金) (無料公開)

… 島と陸をつなぐ100本の赤い糸が空に浮かぶ作品《海渡り》を展示します。

3. 糸あげの日

令和3年 10月30日(土) 9:00～ (参加自由)

… 参加者全員で赤い糸を引き上げ、島居を元に戻します。(9:16干潮)

4. 弁天様のお祭り*旧暦9月26日

令和3年 10月31日(日) 11:00～ (参加自由)

… 島の祠の弁天様に、津奈木の町の無事を祈ります。(10:52干潮)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等のため内容を変更する場合があります。
※荒天時は中止します。

会場：旧赤崎小学校付近

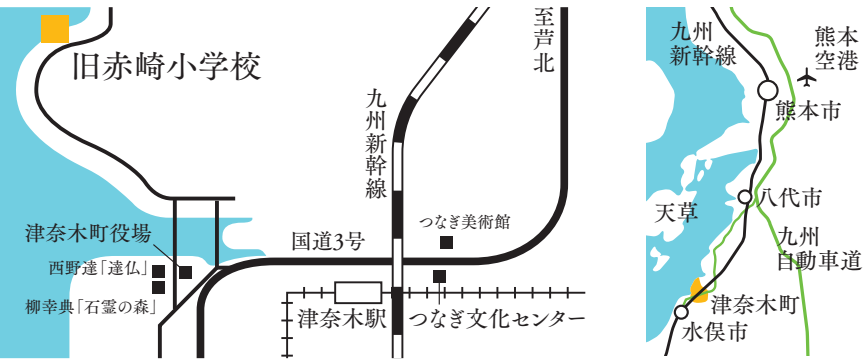
(熊本県葦北郡津奈木町福浜165番地)

主催：津奈木町、つなぎ美術館

協力：津奈木海龍

〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城494

TEL 0966-61-2222 FAX 0966-61-2223 tsunagi-art.jp



海を渡る100本の糸

今回の作品《海渡り》は、島の島居と陸をつなぐように100本の赤い糸を張る予定で、みんなで糸を張る日を「海渡りの日」としました。島居は地元の大工さんに作って頂いて、解体可能になっています。陸と島が100メートルぐらい離れているから、糸が実際に張れるのかを実験するときに、島に朽ちて倒れかけた木の島居があったのを思い出して、仮で結ばせてもらったんです。そのときから赤崎の人たちとも「これを

につないでいくような何かをみんなで興したいと、強く思うようになりました。

つなぎまちのつなぎかた

「海渡りの日」は言葉通り海を渡る日でもあるし、津奈木町の水際での暮らし、海と関わってきた暮らしを体感する日でもあります。だから、競り舟の人たちには、船を出して頂けません

きつかけに島居を直せたらいいよね」というような話になって、最終的にはその島居を建て直すことになりました。海渡りをする期間だけ島居の柱をお借りして、365日のうち11カ月半ぐらいは島居の形で、海渡りのときだけ解体し、柱の部分を使わせてもらう。終わったらまた島居の形に戻して弁天様のお祭りを行います。

海が遠くなった

都市部に比べたら津奈木はまだ自然が豊かな方だと思いますが、自然環境との向き合い方はだいぶ変わってきているというのも、リサーチを通じて感じています。津奈木の70代、80代の世代に話を聞いても「俺らが子どものときより海が遠くなった」と、自然が遠のいてる感覚があるようです。

昔の津奈木の話を聞いていく中で、自然との向き合い方をもう一度、未来

津奈木に「新しい海の日」を

アーティスト 五十嵐靖晃 インタビュー

たった一人のお祭り

津奈木町とは2013年の「赤崎水日郵便局」から関わりがあって、今回はつなぎ美術館の楠本さんから「土地に根ざしたプロジェクト、かつ継続して続けていけそうなものを何か作ってみないか」と2018年にお話を頂きました。改めてリサーチする中で印象に残ったのが、津奈木町の水源地です。水の神様が祀られていて、帰りに山の木々を抜けたら、ぱっと開けた瞬間に海が見えて。水源からこんな近くに海が見えるんだというのが印象に残って、そのとき初めて「水のことをイメージしました。そして、山から水を追いかけて海辺に下り、そこで弁天島に出会いました。

その土地の声を聞く

僕は各地でアートプロジェクトを行うとき、「土地の声を聞く」みたいなイメージでその土地に入るように心掛けていて、それは住んでる人たちのお話を聞くというのはもちろんなんですけど、その場所ですら人と自然がどういうふうに関わっているのかとか、昔から大切にしていることは何かとか、実際にそこに行ってみて実感することを大切にしています。その土地らしい自然と、その土地らしい人。その関係性が見えてきたときに、自分の中で作品がイメージとして浮かびます。今回の「海からの視点」というのは僕自身、作家としてもとても大切にしていきたいと考えていることで、これを津奈木でやれなかった

津奈木を襲った水害

そこから、どうすればテル子さんの祈りや海からの視線、弁天様のまなざしを、みんなと共有できるかを考えていた矢先、津奈木が水害に遭ってしまいました。当初プロジェクトを実行しようと思っていた3ヶ年計画の3年目が2020年だったんです。でも、本当に大変な出来事があった中で、今回のような「水」というキーワードが入るプロジェクトを、今年やるべきか。土地もまだ傷を負った状態で、まだ崩れたままの土地があつていうところで、最終的にはコロナの影響の拡大の影響もあり、1年延期することになりました。

水害をきっかけに、これまで自然と人がどう関わってきたのか、津奈木の人たちがこの土地の自然とどう向き合ってきたのか。もう一度振り返り、未来へつなぎ直す機会に、このプロジェクトがなるといいなと考えています。

五十嵐靖晃

いがらし やすあき / アーティスト

1978年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開。アートとは「自然と人間の関わり」の術」であるとする。2005年にヨットで日本からミクロネシアまで約4000kmを航海した経験から「海からの視座」を活動の根拠とする。代表的なプロジェクトとして、樟の社を舞台に千年続(アートプロジェクト)を目指す福岡県太宰府天満宮での「くすき」(2010～)、漁師らと共に漁網を空に向かって編み上げ土地の風景をつかまえる「そらあみ」(瀬戸内国際芸術祭2013・2016・2019)、山間に暮らす人々と協働し潮と雲を紐紐で結ぶ「雲結い」(北アルプス国際芸術祭2017)などを展開。
<http://igayasu.com>

一度興じていくというか、新しいお祭りを作っていくようなことを、いま、津奈木でやらせてもらっています。
(聞き手…つなぎ美術館 楠本智郎)



住民と対話を重ねる 2020年



テル子さんから弁天様への思いを聞く 2020年



海を渡る五十嵐靖晃と住民 2019年